

# 顧問に着目した部活動の活性化について

富山県高体連研究部第3分科会

「働き方改革」という言葉とともに、教員の「時間外労働」や「働き過ぎ」といったことが注目されております。その理由の一つとして、部活動指導の負担が大きく取り上げられていることから、このような現状の中でも、どのようにしたら活発な活動を実践していけるであろうかということを探るべく、県内各高校の運動部顧問代表の先生方にアンケート調査を実施し、その結果を基に、「運動部活動の活性化」について考察してみました。

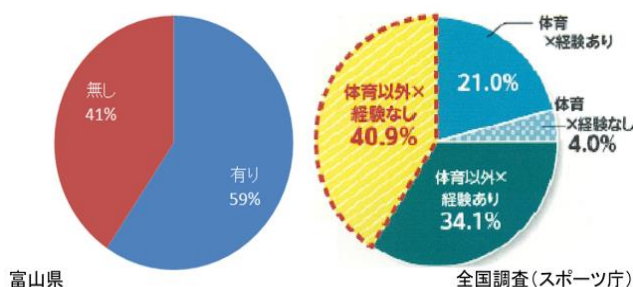
なお、この研究を進めるにあたり、県内各高校の運動部代表顧問の先生方633名より回答をいただきました。

## 1 アンケート結果の概要および顧問の競技経験の有無による比較について

- ・顧問の年齢については、高齢化が進んでおり40才以上が63%を占めている。
- ・顧問数は2名が59%、3名が26%であり、顧問数は2~3名がほとんど。
- ・部員数は数名~20名以内が70%であり、ほとんどの部は20名以内。
- ・顧問の競技経験は、経験者が59%、無経験者は41%で約4割の主顧問は競技経験がない状況。

9/33

### ④顧問の競技経験



この状況については、スポーツ庁の全国調査とほぼ同じ割合で、競技経験のない顧問の声を取り上げてみたところ、

- ・指導者がいない
- ・競技経験がなく技術指導を行えない
- ・一生懸命に指導されている方には申し訳ございませんが、個人的にはもうやめたいです

といった、消極的な声が多くあったことから、顧問の競技経験による違いについてみてみました。

部活動の目標について、経験者では全国大会出場が最も多く41%に対し、未経験者では19%であり、楽しく活動するについては、経験者で15%、未経験者で24%でした。この結果から、経験者は結果重視、未経験者は半数近くが県大会上位入賞を目標としていることもあり、結果と内容の両立を目標としている傾向があると考えられます。

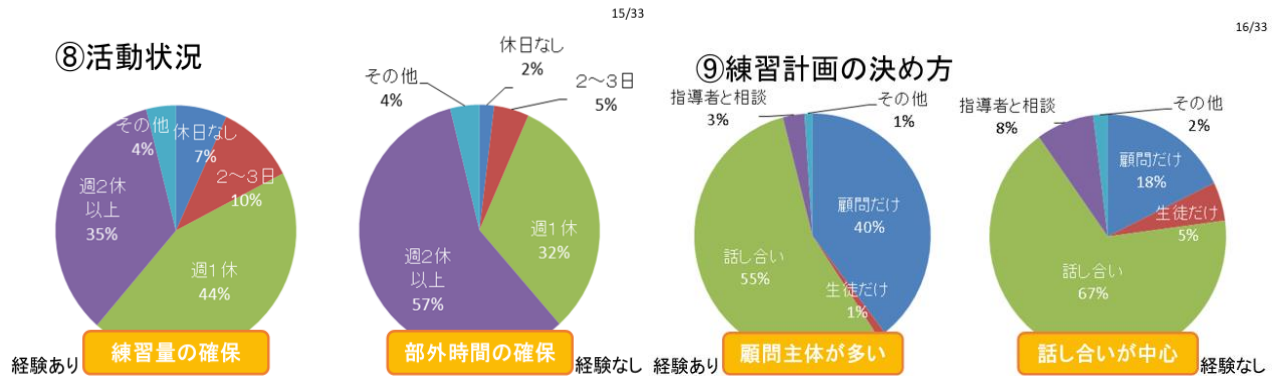
そして部活動の担当理由では、経験者の自らの希望の83%に対し、未経験者は26%と大きな差異が見られ、経験者は積極的に担当しているが、未経験者は消極的であると考えられます。いずれにしても学校からの委嘱のもとに担当していることから、生徒のために頑張っていると思われれます。

なお、顧問の兼任についても少なからず見受けられ、負担とを感じる要素の一つとなっているのではないのでしょうか。

さらに活動状況を探るべく部活動の休日について伺ったところ、経験者においては練習量の関係から活動時間の確保、未経験者においては部活動以外の時間の確保にも努めている様子が感じ取れます。

また、練習計画の決め方について、経験者はその実績をもとに顧問のみで決める傾向が未経験

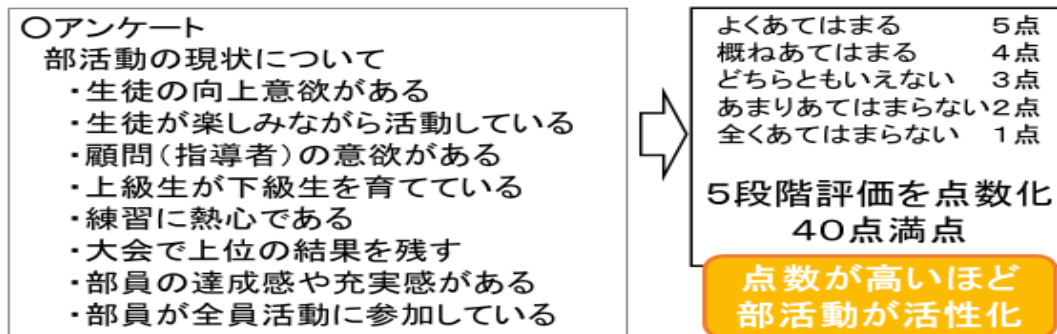
者に比べて非常に多く、未経験者は、話し合いや生徒のみで決めることが多くなっています。しかし、いずれも顧問と生徒の話し合いで決める割合が多くみられることから、生徒主体の活動を目指しているのではないかと考えられます。



概要の最後は、部活動の現状についてです。下記の8項目を点数化してみました。よくあてはまるを5点、全くあてはまらないを1点として、8項目の合計点数が高いほど部活動が活性化していると考えました。

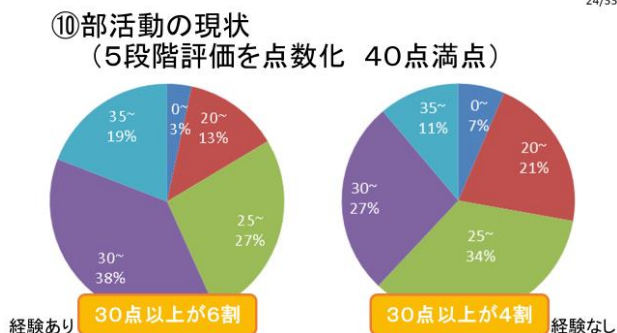
17/33

## ⑩部活動の現状(5段階評価を点数化)



その結果、40点満点中30点以上が49%であり約半数の部活動は活性化しているであろうという結果になりました。しかしながら、経験のない顧問の場合は30点以上が38%であり、経験のない顧問の場合、約6割の部活動において活性化しているとは言いがたく、何か問題を有していることが分かりました。

24/33



ここまでのアンケート結果から、顧問の競技経験による部活動に対する意識の違いをまとめてみると、競技経験のある顧問の先生方は、自らの希望により顧問となり、多くは上位大会出場・入賞を目標として定め、そのために練習時間の確保や練習環境の改善を強く望んでおられます。すなわち、競技スポーツとして部活動に取り組み、その目標に向けて日々努力しておられます。また、競技経験のない顧問の

先生方におかれましては、学校からの依頼によってやむをえず顧問となった方が多く、技術指導が困難なことから、競技を楽しむことを目標として自主性を尊重し、生涯スポーツへ向けての部活動として取り組んでいらっしゃる事が強く感じとれます。ただ、いずれにしても、その根本には、「生徒のために」という気持ちの上で、責任を持ってその責務を果たしていらっしゃる姿が共通点かと思われま

## 2 活性化へ向けて

まずここでは、「部活動の活性化に必要なこと」としてあがった意見を報告していきます。

多かったのは、顧問自身の姿勢・資質に関しては、情熱や顧問自身の創意工夫・努力ということが必要であり、加えて専門的指導力が必要だという意見です。他にも生徒のニーズに応じた配慮や教員全体として部活動の意義を共有することが求められています。

ですが、現状として、「専門的指導ができない」「指導時間が取りづらい」という状態にあり、生徒の気持ちとのミスマッチが生じてしまっています。

これらを改善するために学校でのサポートが必要になってきます。予算や施設・設備面を充実させてもらいたいというのが現場の意見です。他にも学校主導で教員間での部活動の意義やあり方の共通理解が必要と考えられます。また、指導時間を確保するためにも、部活動へ行きやすい職場の雰囲気や多忙化の解消といったこととともに、部活動指導に対する手当の改善を求める声もあがっております。

しかし、中には、生徒の主体性を重視したあり方によって変わっていくことが必要ではないかという意見も多くあります。

さらに、競技経験のない顧問にとっては外部のサポートも必要であります。たとえば、近隣校に出向いて競技経験のある顧問に指導を仰ぐことがあります。また、外部指導者による専門的指導を取り入れていくことで、競技力の向上につながります。しかし、外部指導者が学校の事情や教育活動としての部活動のあり方を理解してもらえないと、かえってマイナスなことも実状として見られます。

また、社会体育との連携が必要不可欠であり、重要視されています。とくに校内で十分な指導が難しい競技については学校外で活動すべきではないかという意見もあります。

このように、多くの意見や要望がありますが、競技経験のない顧問においても、約40%の部活動についてはうまくいっています。ここに部活動活性化のヒントがあるのではないかと考え、その秘訣を探るべく、競技経験のない顧問が部活動を活性化させるために必要なことや工夫している点について、さらなる調査を実施しました。その結果について報告させていただきます。

先のアンケート結果を受け、競技未経験で先ほどの部活動の現状が35点以上の主顧問の先生方に再度、追加のアンケートを記述式で行いました。質問項目は以下の通りです。

- ・部活動顧問をしている中で、喜びを感じたこと
- ・部活動は生徒にどのような良い影響を与えているか
- ・外部指導者と良い関係が構築できている秘訣

このアンケートから部活動の活性化につながっていると思われる意見を紹介します。

## 部活動顧問をしている中で、喜びを感じたこと

- 入部した頃から比べて上手くなっているところを見たとき。
- 初心者で始めた生徒が少しずつ上達し、試合で勝てるようになってきたとき。
- 自分達で部活をよりよくしようと、練習内容などを話し合っていて決めたこと。
- 部員間でトラブルがあった際に、当人間で時間を作り、解決に向かって変化しようとしてくれたとき。
- 生徒の話を書くとき、たわいもない話や悩み、クラスで起こっていることなどを聞くことができる。
- 自分の教科について質問にきてくれたり、何気ない話をしてくれたり、今でも関わりを持ってくれたりすることも喜びの一つです。

### 部活動での良好な人間関係の構築が活性化へ

この回答から、競技自体の上達だけでなく、生徒同士の関係や、生徒と顧問との関係がうまくいっていること、つまり良好な人間関係の構築が活性化につながっていると思われます。

## 生徒にどのような良い影響を与えているか

- 日々の練習が充実していると、生徒が生き生きとした表情で生活を送れる。
- 継続して一つの競技に打ち込むことによって、体力、忍耐力、人とのかわり方など多くのことを学ぶことができ、将来の仕事等に生かすことができる。
- 仲間との協力。責任感がつく。自分で考えて行動する力がつく。
- 潜在能力が引き出される。現状を乗り越える力がつく。
- かけがえのない仲間との出会い、体験の共有。
- 学校の中で多様な人間関係ができる。
- メリハリのある生活をするようになる。勉強につながる。

### 人間的な成長、順調な学校生活、学習習慣

以上、人間的な成長や、順調な学校生活、学習の習慣づけに、部活動はつながっていると思われます。

## 外部指導者との良い関係

- 連絡を密に取り、情報を共有することで、生徒の指導環境が整う。
- ボランティアでお願いしている部分が多いのでどこまでやってもらっているかわからないが、スケジュールだけでなく、生徒の様子を伝え合っていて、外部指導者との良好な人間関係作りがいかにかけるかがキーポイントだと思います。
- 責任感と愛情をもって指導に取り組んでいただける。
- 専門家ではないので、外部指導者がいることで助かっている。

### 顧問が外部指導者と良い人間関係を築く

といった回答が寄せられました。

これらの回答から、その競技が未経験の場合、顧問が生徒や外部指導者と良い人間関係を築くことが部活動の活性化に直結していると考えられます。

### 3 まとめ

最初のアンケートからは、顧問自身の資質、学校サイドからのサポート、外部からのサポートの3つの観点から問題が浮かび上がりました。追加アンケートからは、競技経験がなくても生徒の成長に喜びを感じている顧問の先生が一生懸命にがんばっていらっしゃる姿がわかりました。一方、顧問の努力だけでは部活動の活性化には限界があることもわかります。

部活動は、学習指導要領にある通り、学習意欲の向上・責任感・連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に関わる活動であり、「生きる力」をより向上させる上で大きな役割を果たしています。

顧問には今も昔も情熱が求められていますが、今回の調査では、教育活動の忙しさに疲弊し、顧問の活動意欲が停滞していることが浮き彫りになりました。また、施設や予算などの活動環境の改善にも多くの意見をいただきました。そして、多くの顧問は専門的な指導ができないことに不安を感じています。近年では、部活動指導員やテクニカルエキスパートが配置され、その成果が得られている様子から、求める声が大きくなっています。しかし、「部活動指導員を希望調査があるたびに要望しているが、数に限りがあり配置してもらえない」、「競技経験もなくテクニカルエキスパートをお願いしたいが、適切な方を知らない、もしくは現行の条件では依頼できない」など、現場の求める声に対し、十分に対応しきれていない実状があります。さらには、教員の定数が増えることはなく、部活動顧問という立場も校務に反映されず、事故が起こった場合の責任問題も重くのしかかってきており、多忙化に拍車をかけております。しかし、教員は何らかの部の顧問になる現状がある以上、それをネガティブにとらえるのではなく、教科指導では得られない喜び（深い人間関係・生徒の成長を身近に感じられる等）を得られる貴重な機会であるという認識を持つことが必要であると思われまます。部活動が教育活動の一環である以上、そこに何を求めるか、原点に立ち返って考える必要があるのではないのでしょうか。

それぞれの部活動での目標は様々であり、生徒のニーズに応じた活動内容の精選も必要となってきますが、その求められたものに対する取り組みを支援すべく体制を整えることも重要となります。具体的には、部活動指導にあたる顧問の校務への配慮等による**指導時間の確保、専門性を持った教員の計画的配置、近隣地域等の学校同士の協力、競技団体の理解**などがあげられます。すなわち顧問任せにせず、**学校・高体連・競技団体・地域・県などの協力体制**が、部活動の活性化における大きなポイントになるかと思えます。そうすることによって、競技経験の有無にかかわらず、生徒との良好な人間関係のもと、生徒の成長を促すのみならず、部活動を通じて自らも成長することのできる良い機会としてとらえることができるようになり、主体的・対話的な深い学びに結びつくのではないのでしょうか。そして、顧問としてもやりがいがあり、生徒にとっても有意義な部活動が実践されていくものと考えます。

最後になりましたが、アンケートにご協力いただきました関係各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

ありがとうございました。